

定例市長記者会見録

日 時：9月25日(水) 午後1時30分～2時10分

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長、山田副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、読売新聞、中部経済新聞、時事通信社

本日の案件は五つです。

1 番目は「『BISHU FES.』開催概要の追加情報」についてです。

昨年から始まった尾張の国・尾州で行うイベントです。繊維・芸術・食をテーマに、昨年は真清田神社で TGC（東京ガールズコレクション）を行ったことで話題になりました。今年は10月12日（土）・13日（日）に開催することを8月の記者会見でお伝えしましたが、今回はその追加情報をいくつか紹介させていただきます。

まずは、「制服ブランド・Lucy Pop（ルーシーポップ）試着体験会」です。この Lucy Pop は制服系のブランドで、海外でも人気があるとのことで、そのブランドとコラボしてイベントを行います。二つ目は、「映画「BISHU ～世界でいちばん優しい服～」トークショー」です。10月公開の映画「BISHU ～世界でいちばん優しい服～」主演の服部樹咲さん、岡崎紗絵さん、吉田栄作さんと監督の西川さんにお越しいただいて、本町商店街で行うことが決まっています。三つ目が、「吉田栄作ミニライブ」です。30分ほどですが、トークショーに続いて吉田栄作さんに出演していただきます。四つ目ですが、アート分野で協力していただける方として、現代美術作家の鷺尾友公さんに決まりました。本町商店街アーケードの南北両端に鷺尾さんの作品を掲出させていただきます。ほかには、若者を中心に「名古屋芸術大学によるアート展示」や「高校生のファッションショー&ファッションコンテスト」を行います。ファッションショー&ファッションコンテストの司会は CBC テレビ「チャント！」のキャスター・柳沢彩美さんです。「びしゅう産地の文化祭」では、尾州で作られた服や雑貨の販売などを行います。

昨年は発信で大成功しましたが、今年は発信情報だけでなく、できるだけお金が動く仕掛けということを意識して取り組みたいと考えています。

2 番目は「健康支援アプリをリリース・子育て支援アプリをリニューアルします ～皆さまの暮らしをデジタルでサポート～」についてです。

市では地域 DX に取り組んでいますが、今回、健康支援アプリのリリースと、従来からある子育て支援アプリのリニューアルを行います。

健康支援アプリは、「kencom（ケンコム）」というもので、開発企業の DeSC ヘルスケア株式会社は DeNA のグループ会社です。アプリでは、健康情報の登録や日々の活動でポイントを貯め、そのポイントをデジタルギフトと交換できたり、いろいろな健康情報が配信

されたり、その日やるべき健康行動が一目で分かったりします。また、ミッションを達成することでキャラクターが成長して、楽しみながら続けられる仕掛けが盛り込まれています。一番の推しは、現状、健診結果はマイナポータル上でも取得できますが、国のマイナポータルサイトでは 5 年でデータが消えてしまいます。そこで、そのデータをアプリに保存することで、生涯にわたって参照できるようになります。ただし、この機能は現時点では実装されておらず 2024 年度中に実装をする予定ですので、ご注意ください。

このアプリは主に企業の健康保険組合に多く採用されており、100 を超える採用実績があります。自治体でも導入を始め、一宮市は全国で 8 番目になります。神奈川県鎌倉市や岡山県岡山市が先に導入していますが、東海地方では当市が初になります。

次に、リニューアルする子育て支援アプリ「138 おやこ手帳アプリ」です。こちらは既に 600 を超える自治体で採用されています。一宮市には、以前から子育て支援アプリがありましたが、従来のアプリでは 1 アカウントにつき 1 ダウンロードということで、例えばお母さんが登録するとお母さんしか使えませんでした。今回のアプリはデータを共有できるので、子どもの成長記録や日記などを保存し、家族で共有し合えます。ほかにも、予防接種のスケジュール管理は従来のアプリでもできましたが、新アプリではスケジュールの再調整・修正・変更などが簡単にできるようになり、より便利なアプリになります。

今年は地域 DX として三つの事業を予定しており、そのうちの二つがこのアプリです。もう一つは、施設予約を進めています。中学校の体育館は、今は紙の利用証を見せて、鍵の受け渡しをして、現場で鍵を使って開けています。そこで、中学校の体育館の鍵を暗証番号で開く電子キータイプに替えていきます。これは 2025 年 3 月ごろを予定しています。

国がマイナンバーを使って、医療分野の DX を進めていますので、市では病気になる一歩手前で、健康をテーマに市民の皆さまに喜んでもらえるような、便利さを実感してもらえるような取り組みを進めていくことにしています。

3 番目は「まちなかウォークابل推進事業 ～ホンマチチャレンジ 2024～ を実施します」についてです。

まちなかウォークابلについては、いろいろ取り組んできましたが、今年度は 10 月 1 日から「ホンマチチャレンジ 2024」と題して実施します。国土交通省の制度に、歩行者利便増進道路制度（通称：ほこみち）があり、この制度導入に向けて 1 月末までの 4 か月間、実装的に取り組むこととしました。本格導入されれば、通常 5 年の道路占用許可は最長 20 年まで認められるほか、道路占用料も 10 分の 1 に減額されます。減額で浮いた分を、例えばテラス付きの飲食店であれば、お店の前に置くテーブルやイスへの投資に回すことで、道路空間がよりにぎわって経済が活性化し、市民をはじめとする利用者の満足度も向上するという好循環に繋がっていきたいと思います。まずはその前段階になります。県内では、江南市が布袋駅前に取り組んでいますが、江南市の場合は駅前広場としての運用で、商店街としての「ほこみち」制度導入に向けた取り組みは、一宮市が県内初になります。本町

商店街すべての区画で実施するわけではなく、全 111 区画のうち、参加希望のあった 50 区画で、全体の 45%の店舗が参加されます。参加店舗の前では、テーブルやイス、商品棚、看板、植栽、ベンチなどが置かれることになります。

4 番目は「公益通報の外部通報窓口の見直し」についてです。

兵庫県で話題になっていますが、一宮市は公益通報制度を 2006 年から行っており、今回はそれを見直すものです。これまで制度の利用は 2 件と少ないですが、少ないから大丈夫ということではなく、今後どういった事態になるか分かりませんので、独立性をより高めることにしました。これまでも外部の窓口で委嘱している弁護士はいましたが、その方は市の顧問弁護士でもありました。今回、兵庫県の議論を見ていると、独立性や第三者性に疑義が持たれていますので、一宮市としても、市と関係のない弁護士にお願いするということで、後藤隆弁護士にお願いすることにしました。こちらは、10 月 1 日から運用を開始します。

5 番目は「欧州における尾州ブランドプロモーション、ファッション・芸術交流事業」についてです。

私のフランス出張で、10 月 14 日（月）から 20 日（日）までの 1 週間を予定しています。柱が 2 本あり、一つ目が繊維の産業関係になります。尾州の工場に行くと、有名なラグジュアリーブランドなどに使われてはいますが、そのことを守秘義務があって公表ができないという課題があります。もちろんブランド側にしてみると、模倣品・模造品対策で守秘義務をかけるというのは分かりますが、この地域の技術力の高さを誇ることができないのは残念だと思っていました。

一方で 2022 年に LVMH グループのトップが 5 月に総理官邸を訪れた際のグループの発言は、社会的責任の中でメイドインジャパンの生地というだけでなく、さらに踏み込んで、これからはしっかり産地もオープンにして日本の職人芸の保持・育成に協力して行きたいというものでした。それを受け、私も経済産業省や全国市長会など、さまざまなルートを使って LVMH グループ、まずは LVMH ジャパンといろいろなやりとりをしています。LVMH グループの中にメティエダールという会社があります。そのメティエダール社が日本の産地を回りパートナーシップを締結していますが、今はまだ京都の西陣と岡山の倉敷の 2 カ所だけです。京都は西陣織で倉敷はデニムですので、そこにぜひ一宮市の尾州毛織も加えていただこうと動いています。LVMH ジャパンは非常に協力的ですが、やはり最後にそうした締結の是非を決めるのは本部になりますので、今回、そのパリの本部に行き、こちらの説明をし、相手の考え方をしっかり聞いて、よりこの地域の繊維産業が正当に評価されて知られるような環境というものを作りたいと思っています。日本の経済ではよく言われることですが、例えば iPhone も分解すれば日本の部品がいっぱい出てくるみたいな話で、技術はあるが商売で負けている、という一番おいしいところを取られてしまっている状況な

ので、これは何とかしたいなと思い、現地へ乗り込んで動いてみようと考えています。

二つ目の柱は、三岸節子さんと芸術関係になります。三岸節子さんは 69 歳から 84 歳までの 15 年間、フランスのブルゴーニュ地方のヴェロン村に滞在されてアトリエで創作活動をされていました。そうしたこともあり、2018 年にはヴェロン村の助役に一宮市へお越しいただきました。実際に、ヴェロン村の三岸節子さんのアトリエで絵を描いたりした日本の作家らの有志の集まり「ヴェロン會」という活動があり、一宮市の若い子たちも巻き込んで何かできないかなという思いもあります。芸術関係でのまちづくりは、2022 年の国際芸術祭（旧トリエンナーレ）も一宮市で開催されましたので、そのレガシーを生かす糸口も探りながら、より交流を広げられるようなことも考えてヴェロン村へ行こうと考えています。

参加者は、私と担当部である活力創造部長、現在一宮市から経済産業省に出向している繊維担当の職員、そして三岸節子さんの孫で、ヴェロン村で生活されたこともある三岸太郎さんの 4 名です。また今回は、行程中にパーティー・レセプションなどが 3 回予定されていることもあり、私と三岸太郎さんは配偶者を同行します。それぞれの配偶者は自費で同行する予定で、フランス語や英語が話せますので、それによって現地のアシスタントや通訳の費用を削減することができます。

私からの説明は以上です。

質疑応答

■『BISHU FES.』開催概要の追加情報について

（記者）イベント内容は、これで決定ですか？ 追加の予定はありますか？

（市長）決定です。追加はありません。

■健康支援アプリをリリース・子育て支援アプリをリニューアルします

～皆さまの暮らしをデジタルでサポート～

（記者）「Kencom」は、もともとあるアプリを活用しているのですか？

（市長）はい、それを一宮市に導入するということです。

（記者）「138 おやこ手帳アプリ」は、今回、新たに作ったのですか？

（市長）この子育て支援アプリ自体は母子モ株式会社さんが制作したもので、すでに 640 の自治体で使われています。

（記者）新しい事業ということで、思い入れなどをお聞かせください。

（市長）そうですね。アプリ・サービスとしては三つです。今年「kencom」と「138 おやこ手帳アプリ」に加え「施設予約」が出ますが、もう一つ「都市 OS」ということで、分野を超えた情報データを連携させる基盤の整備をします。これにより「kencom」の健診結果の保存機能と、「138 おやこ手帳アプリ」で予防接種を打った履歴を紐付

けられるようになりますので、生涯自分の健康データが自分で分かります。生涯自分の健康データは自分で気にしながら健やかに成長するというのが一人でも多くの人に広がるといいなと期待しています。

(記者) ダウンロード数の目標などがありますか？

(職員) 「kencom」については、2025 年 3 月までの半年で 5,000 ダウンロードを目標としています。

(市長) 「138 おやこ手帳アプリ」も新しいものをダウンロードしていただくことになりませんが、リニューアル前で総ダウンロード数が 1 万件を超えています。

(記者) アプリが無事リリースされたということで、意気込みや注目されている機能などがありますか？

(市長) 一人でも多くの方にご利用いただくことで、自分の健康を自分で管理することが健やかな生活の第一歩につながるのではないかと考えています。また、都市 OS を分野を超えて活用していきたいと思っています。例えば、小中学校にお子様が入學するときにいろいろな書類を市に提出していただく必要があります。「138 おやこ手帳アプリ」から予防接種の履歴が取得できれば、本人や保護者の方の同意の上でデータ連携ができるようになり、市に提出していただく書類の削減がどんどん進められます。そうした教育と福祉・子育ての垣根を超えた取り組みをやっていこうと、次々年度の導入に向けて教育委員会と話を進めています。

■まちなかウォーカブル推進事業 ～ホンマチチャレンジ 2024～ を実施します

(記者) 区画数とは、店舗数のことですか？

(市長) 本町商店街の全 111 区画は、空き店舗や住宅・駐車場を含めたものです。そういう意味では 100%の参加は難しいのかもしれませんが。今回参加するのは 50 区画で、すべて営業している店舗です。全 111 区画中 50 区画の参加で、その 50 区画は 50 店舗です。

(記者) 50 店舗の参加は、手ごたえとして多いのか少ないのかというところと、この取り組みによる期待のようなものがあれば教えてください。

(市長) スタートダッシュとしては、まずまずの出来と評価をしています。何よりも参加される皆さんが楽しみながら主体的にやっていただくことが大事だと思います。どうすることがこの地域・商店街・まちなかに人を呼び込む鍵になるかということを、創意工夫を凝らして考えていただけるのではないかなと期待しています。

(記者) 設置する場所は、歩道のみですか？

(市長) 午前 11 時から午後 8 時まで、車道の中央部分を人が歩く空間として利用し、車道の残りの部分と歩道にベンチを置いたり、商品などを並べたりします。

(記者) 本町商店街での「ほこみち」の試みは初めてですか？

(市長) イベント時の一時的な占有はありますが、4 カ月間歩道を自由に使っていただく

のは初めてです。

■公益通報の外部通報窓口の見直し

(記者) これまでは、顧問弁護士が対応していたのですか？

(市長) そうです。宇津木先生です。

(記者) 発案したのは市長ですか？

(市長) 私です。

(記者) 弁護士が受理・不受理を判断した場合に、調査は弁護士の他にスタッフも加わるのですか？

(職員) 相談を受けたら調査を実施し、公益通報委員会にて合議制で違法性・不当性の有無を判断していくことになります。

(市長) 市長のところに話が来て都合が悪いからと言って握り潰すことなどがないように委員会制度が設けられています。公益通報委員会という複数の人の目が入るような形の合議制をとっています。

■「欧州における尾州ブランドプロモーション、ファッション・芸術交流事業」について

(記者) 今回の視察で学びたいことや、具体的に今後のイベントや PR 活動に繋げたいことなどはありますか？

(市長) 見に行くだけの視察ではありません。働きかけに行きます。交渉に行きます。こちらからやりたいことがあって、やって欲しいことがあって乗り込んでいきます。

ヴェロン村との交流もそうですが、芸術をツールとしたまちおこし、まちの活性化に繋げたいと思います。例えばこの地域の芸術・文化・デザインを学ぶ高校生や大学生が一宮市ゆかりのヨーロッパに行って、学んだり何か作れたりしたらいいなと思っています。今回そうした交渉もしていこうと考えています。

(記者) 産業に関して、働きかけをしたいことなどはありますか？

(市長) LVMH グループでは、尾州生地の品質をアピールし、パートナーシップ締結のきっかけになることを期待して、突っ込んだ議論をしていきます。CLAIR Paris (クレアパリ) と JETRO Paris (ジェトロ パリ) は、それぞれ総務省・経済産業省の外郭団体の事務所で、日本の産品・物品の輸出に関するプロ中のプロです。また、最近作られた GOEN (ゴエン) というアンテナショップでも、どのようなものが売れるのかといった最前線の情報が得られると思います。ネットに載る手前の肌感覚というものを何かつかめたらいいなと思います。

(記者) 来年は三岸節子の生誕 120 年ですが、それに合わせた企画もねらいとしてありますか？

(市長) そうですね。より向こう側の協力を得やすい、いいタイミングだと思います。